

KFC

世界の新旧サブカルチャーを武川から発信する - 甲斐駒フィルムクラブ -

甲斐駒フィルムクラブ

NOVEMBER 2020 ISSUE #022

ポリティカル・フィクション特集

今この街では政治の言葉が溢れている。スローガンに掲げたのぼりが立ち並び、チラシが飛び交っている。ぼくたちフィルムクラブは現在地から距離をとってポリティカル・フィクションについて考えてみたい。自己完結した虚構であるフィクションの作品。それは双方向性を持つ現代の、共感前提の社会が生む分断への処方箋であるとする。

「ハッピーなのか切ないのかあなたはどうか観る？」 つちすけ

パブリック 図書館の奇跡

2018 / アメリカ / エミリオ・エステヴェス 監督 / エミリオ・エステヴェス 主演

その年のアメリカの都市シンシナティは大寒波が襲っていてホームレスが凍死するほどだった。公共図書館はホームレス達が暖をとれる唯一の居場所だった。公共図書館は閉館後全員退去がルール。しかし都市のシェルターはいっぱいで泊まるところのないホームレス達は図書館に立てこもることを決意する。主人公の図書館員はルールよりも人命を優先しようと立てこもりに協力することに。死にたくないホームレス達とそれを助けようとする図書館員の立てこもり事件は名を上げようとする市長候補とより注目されるニュースを作りたいメディアの策略によって凶悪事件に仕立てあげられていく。この映画にでてくるホームレス達は元軍人や再就職ができずに家族に捨てられた者達で1度ルールを踏み外すとなかなか戻れない社会の落ちこぼれ達。メディアに取り上げられたことで俺たちは世間にアピールしたんだ！と目をキラキラさせているホームレスの姿がなんだかとても切なく感じました。基本的には人助けの精神の素晴らしさも感じられる映画ですがなにかモヤモヤとしたものが残る作品です。

全員がハッピーになれる社会は作れるのだろうか？

「コメディ？ホラー？ドキュメンタリー？」 カム

帰ってきたヒトラー

2016 / ドイツ / ダーヴィット・ヴネント 監督 / オリヴァー・マスッチ 主演

何の気なしに手に取っていた前情報なしで観はじめたこの映画。ヒトラーが現代にタイムスリップして、コメディアンとして大衆の心を掴ん

MOVIE

「現実となったマトリックス」 徳光康平

監視資本主義 デジタル社会がもたらす光と影

2020 / アメリカ / ジェフ・オーロースキー 監督 / スカイラー・ギソンド 主演

デジタルツールがもたらす恩恵は凄まじく、ぼくらの生活が一変してしまった。70年代生まれのぼくは、テレビを茶の間で見て、団欒に疲れば雑誌や本に没頭する。現在は弱体化してしまったオールドメディア（虚構）で人生を消費していた訳だ。だが、世界中がネットワークで繋がった現代、ソーシャルネットワークによるコミュニケーション（現実）が人生の消費に成り代わりつつある。そこは巨大なテック企業による無料サービス。虚構よりも刺激的な現実が広がっている、かのように見える。

このドキュメンタリー映画は google、facebook、twitter などの企業が囹らずして犯した大罪の告白である。監視資本主義とは何か。無料で使えるサービスの顧客はユーザーではなく、広告主だ。そしてユーザーは商品。突然現れた超巨大な先物市場にいま現在、世界中が振り回されている。商品であるユーザーは本来ツールであるはずのアプリに行動を誘導される。その結果…。ぜひ本編を観て欲しい。

ぼくは映画を観ていて動悸が止まらなくなった。本当に恐ろしい現実だ。ふとした瞬間タイムラインを見たくなる欲求はプログラムによって呼び起こされる。facebook がアメリカの選挙に与えた影響はニュースになった。これからは SNS によりコントロールや思想の分断が起こるのは間違いなく、誰もが真実を知った気になる。タイムラインと Google 検索しただけなのに誰かを糾弾する。奴らは無知だと罵る。その状態で選挙すれば良い結果が起きるわけがない。ぼくらには誠実な対話と謙虚な学びが必要だ。

でいく ... というストーリー。チープなコメディか？と、嫌な予感がして観ていたのだけど、所々にドキュメンタリー調の映像が流れたりして、現実と非現実が交互に絡んで観ている私も思いがけず混乱していく。ヒトラーがタイムスリップするなんて非現実的な設定なのに、リアルなドイツ人の声を聞くことで、私自身も映画の中の大衆に溶け込んでいく感覚。

ヒトラーが大衆に受け入れられていくにつれ、コメディの色をなくし、笑えなくなる。私もまんまとヒトラーに支配されていくようだった。

過剰な思想をもち、でも人を惹きつける何かを持つ独裁者が、不満であふれる社会に現れたとしたら。私たちはまたヒトラーを選んでしまうのかもしれない。

「総括じゃあー！！！」 YASU

実録・連合赤軍 あさま山荘への道程

2008 / 日本 / 若松孝二 監督 / 並木愛枝 主演

総括とは60年代学生運動からの流れで結成された鉄球ゴーンでお馴染み、左翼党派、連合赤軍が使っていた粛清の熟語でございます。連合赤軍のあーだこーだの話は本、TV、映画などで大貫憲章のLP以上に擦られてきたから今更内容は割愛するのでございます。アフォー、ザロー、アン、ローウォンでございます。ローンドーンコリーン！ニニニー！でございます。がっ！この映画は人の精神が崩れてく描写が凄い。エグイ。様々な角度で観る人がいる中で、僕は本作で阿保かというくらい出てくる「総括」というワードにドキッとする。この言葉を端に発し自己批判という建前（当人たちは本気）で比較、差別、侮蔑、憎悪、愚弄ごちゃまぜで一人を心身ともに大勢で追い込む。具合の悪いことに当人悪気なし！同調圧力の権化！この場面を見て脳裏に浮かんだのは昔、給食を時間内に食べられなかった同級生が校庭ではしゃいでいる児童たちの声をバックに昼休みに独りで残りを食べていたあの子の光景。あれは先生の総括だったし、イジメも当然。SNSでの芸能人へ

の不倫、ドラッグ、脱税に対するバッシングも総括。ヒマである。ヒマ総括である。もっと色々言いたいが今度は僕が総括されてしまう（笑）実は半世紀を経た今の総括は加速していて、あなたの周りにも当然、小さな社会＝小さな政治が子供の頃から存在し、忍び寄る総括の魔の手が手ぐすね引いて待っている。気をつけましょう。何を？あなたが総括しているかもって事を。ピクンとしたらこれ見てみて。損しません。さて、総括何回いったでしょう？

「今すぐ愚民ども全てに叡智を授けてみせろ」 シャア・アズナブル

機動戦士ガンダム 逆襲のシャア

1988 / 日本 / 富野由悠季 監督 / 池田秀一 主演

本作は子供向けのロボットアニメを装った戦争と政治の映画だ。地球と宇宙移民の断絶と世代間の断絶から主人公、シャアは極端な手段に出る。宇宙移民の国、ジオン公国の血筋、軍人、政治家として宇宙移民を掌握するシャア。その言葉は、現代の“わかっちゃいるけどやめられない”資本主義で環境を破壊し続ける地球人、安全圏から理想論を話し、虐げられた人々への自己責任論を展開する地球人への絶望に置き換えられる。エキセントリックな少年少女パイロットの言動に注目してほしい。社会化してすっかり忘れてしまったが、ぼくらの生の感情は実際あんなものだったのかも知れない。

BOOK

「勝負すること」 TAKE IVY

命もいらず名もいらず（上）

2013 / 山本兼一 著

幕末の英傑たちの脇を固め、現代でも多くのファンがいる山岡鉄舟の話。こ

譲らないか、もしくは「パンだけは絶対に食べたくない」とするか、ということだ。この選択を放棄すると何でも黙って食わされる羽目になる。

最後に、人間の脳みそというのは容量が限られていて、なんでも正確に覚えていることなど不可能なのだ。その時々感情や私情にすぐに支配されるし、やる気や体調もすぐに変化してしまう。ようするにみんな【ポンコツ】なのだ。であるから、選挙に立候補する人たちを立派だなどと思わず、自分と同じポンコツのろくでなしであって、昼食の弁当を買ってきてくれる人程度に考えて投票に臨んでみてはいかがであろうか。

市長の任期は4年間、この期間なんでも出されたものを食べるのは、誰しも嫌なことであるから、栄養に偏りがなく、みなそこそこ、腹八分目程度におなかを満たせる食事を具体的に提案しているのは誰なのか。それぞれのメニュー表をじっくり眺めて、テイストを想像し、オーダーしたい。

編集後記

選挙の時期という事でポリティカル・フィクションを特集してみました。北杜市長、市議選挙。アメリカ大統領選挙。大阪都構想の住民投票。など、政治により皆が昂っている現在、作品にフォーカスする事で抽象を抜き取ることが出来るのか？という試みです。個人的なポジションや思想なんて本来関係ないんですよ。本当に重要なのは投票後の日常なので。お祭り気分で敵味方分かれて盛り上がる人たちを見ると、抑圧された自意識を持っているのかと時に心配してしまう今日この頃です。ぼくたちホモ・サピエンスはうわさ話が大好きで、その燃料投下を皆が期待している。しかし前提として投票する人たちは皆仲間であり、落選した候補、政策への配慮を忘れてはならない。少数意見であればあるほど汲み取るべきだし、お祭り気分で政策を語るべきではない。動員の革命は世の中をより良い方向に導くことはなかったのだ。日常で政治の言葉が難しければポリティカル・フィクションを題材に議論すれば良い。時代が流れれば政治も変化する。もしかしたら未来には死なない

の本を読むきっかけとなったのはまさに、鉄舟ファンである一人の剣道経験者から。鉄舟は剣だけでなく書や禅に打ち込む、武士の中の武士だ。その鉄舟について、名前は聞いたことがあるが詳しく知らないというあなた！タイトルからして雰囲気のあるこの男に魅了されること間違いなしです。「名を揚げたい」とは、誰もが一度は思うことでしょう。でもそれって、何のためだろうか。自己満足であり、周りからの評判をあげることにこだわることでないでしょうか。それは目的じゃないですよ。では何か。鉄舟はそれを、剣、書、禅から導いているのです。一つだけ書くとすると、名を惜しまなければ思い切ることができるということ。地方に行けば行くほど、その名にいろんなものが付いている人がいる。惜しみ切れとまでは言わないが、宇宙は広いと考えたとき、どうだろうか。次回、下巻へ続く！

COLUMN

第21話 「ポンコツ」 ボロックス菊嶋

北杜市長・市議会議員選挙がいよいよ差し迫ってきた。各候補者の政策や印象も少しずつ明らかになってきている。今回は「選挙」というものが一体何なのか、考察してみたい。まず選挙にはいかなる場合も共通している3つの考え方の原則があるという。ひとつめは【自分の出したお金の使い道は、自分で決める】ということ。ふたつめは【当選の事前予測に対して、賛成か反対か考える】ということ。最後に【立候補者はみな目立ちたがり屋のろくでなしである、と考える】ということ。

まずひとつめ、例えばコンビニに行ってレジで1000円を差し出し「何でもいからこれで食える弁当をくれ」という人はまずいないだろう、おにぎりなりパンなり自分の食べたいものを選ぶはずだ、選挙も同じで自分の食べたいものを買ってきてくれる人を選ぶだけである。そしてふたつめ、自分はおにぎりが食べたいのに、どうやら他の人はパンが食べたいらしい。それについて、「まあ、パンでもいいか」とするか「絶対におにぎりが食べたい」と

身体、人工的な脳の進化があるかもしれない。そんなとんでもない事態にも政治でしか対応出来ないだろう。その為にフィクションを最大限に使い、思考実験するんだ。

徳光康平

KFC
甲斐駒フィルムラジオ

FM八ヶ岳・82.2MHz 毎月第3金曜日 12時～12時30分

『Waniスタ・ランチタイム』にフィルムクラブが登場！
フィルムクラブ内の記事や、最近見た映画、読んだ本などを紹介。
過去2ヶ月ぶんのアーカイブもありますので、リアルタイムで聴けない方はこちらから！
<https://yatsugatake.ne.jp/we008.html>

甲斐駒フィルムクラブのバックナンバーはこちら！

<https://note.com/kaikomafilmclub>



〔編 集〕 徳光康平

〔デザイン〕 Annie

〔ライター〕 つちすけ / カム / ボロックス菊嶋 / YASU / TAKE IVY

〔発行・共催〕 甲斐駒フィルムクラブ / むかわ図書館

フィルムクラブへのお便りはメール、もしくは図書館へどんどん下さい！

kaikomafilmclub@aol.com